

平成27年度事業報告

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

東日本大震災・津波の発生から5年目を迎え、また、東京電力福島第一原子力発電所事故で汚染された飼料基盤の除染対策が概ね終了し、県内の畜産経営が震災や原発事故の影響から脱却しつつあるものの、特に大家畜において、家畜飼養者の高齢化による畜産農家戸数及び家畜飼養頭数の減少傾向が続いた。

そうした中、当協会は、重点実施事項の1に掲げた経営診断・経営技術指導に、より積極的に取り組み、経営の安定化を支援した。

また、全国的な肉用牛繁殖基盤の縮小により肥育もと牛等が不足し、子牛価格の高騰が続く一方で、国産牛肉の需給逼迫により、牛枝肉価格は堅調に推移した。その結果、肉用牛肥育経営におけるもと牛導入の資金繰りに厳しさが増す中であっても、肉用牛肥育経営安定特別対策事業補填金の発動が一部限定的となった。

家畜人工授精用精液流通調整事業の精液供給本数では、対前年度比97.8%となったものの、飼養頭数の減少等を踏まえて設定した計画数量を2.7%上回った。内訳では、乳用牛が対前年度比85.9%に対して、肉用牛が同105.4%となり、酪農での肉用牛生産に向けた精液需要を映し出す結果となった。

東北地域を対象とする生乳検査事業では、乳牛の飼養頭数減少等を踏まえて設定した計画数量より約4%上回る実績となり、対前年度比では99.2%の微減にとどまった。

他方、平成27年度は、環太平洋経済連携協定（TPP）の合意・署名がなされるという、わが国の農業史上における重大な転換点となった。こうした中、国がTPP対策として力を注ぐ「畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業」のうち、機械導入事業について、本県における窓口団体事務を受託し、事業の活用と円滑な推進に努めた。

【重点実施事項】

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導等の実施
- 2 肉用牛肥育経営安定特別対策事業等、経営安定対策の的確な実施
- 3 家畜人工授精用精液の安定供給等、家畜改良増殖関係事業の的確な実施
- 4 地域ぐるみの家畜衛生対策の推進及び東北地域生乳検査業務の円滑な実施
- 5 全日本ホルスタイン共進会や全国和牛能力共進会への出品対策等の実施

I 実施事業

1 継続事業1

畜産経営者に対する生産技術及び畜産経営の改善指導、安全良質な畜産物の生産及び家畜の健康保持に係る知識の普及啓発、畜産及び家畜衛生に関する調査・研究及び広報並びに情報の収集提供、家畜の改良促進及び家畜伝染性疾病的予防・まん延防止に関する措置等防疫の推進を行った。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[岩手県委託：5,352千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営体支援指導研究会 1回

イ 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施 延べ 197件 (対前年度比 108.2%)

① 経営診断に基づく改善指導 21件 (対前年度比 150.0%)

② 経営管理技術指導 38件 (対前年度比 97.4%)

③ 生産技術指導 87件 (対前年度比 120.8%)

④ フォローアップ指導 51件 (対前年度比 89.5%)

(イ) 地域セミナーの開催 6回

ウ 畜産経営情報の提供 (ホームページ)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,654千円]

畜産特別資金借受者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

協議会開催 3回、融資機関指導 23か所、借受者指導 44戸ほか

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：11,818千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

- ・ 経営診断指導 (コンサルティング) 197戸、地域セミナー 6回ほか
- ・ 酪農・肉用牛に携わる女性の集い 1回、参加者 147名
- ・ 乳質改善指導 ミルキングシステム診断 492基、バルククーラ点検 351基
- ・ 乳用牛群検定推進 (検定成績等取りまとめ・配布)
- ・ 地域研修会・会議等への参加及び指導 会議等 11回、指導等 4回
- ・ 家畜生産農場清浄化促進啓発

イ 地域畜産の活性化に資する事業

- ・ 第14回全日本ホルスタイン共進会への出品・運営支援
- ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 対象 35地域
- ・ 畜産の提供及び普及啓発 (要覧作成・ホームページ更新等)

ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業

- ・ 競馬場における畜産普及啓発
- ・ 畜産フェア (水沢競馬場) リーフレット及び畜産物加工品配布 500人分

- 冠レース優勝者への副賞（畜産物）授与 2回
- ・ 主要馬産地イベント支援（副賞授与）馬力大会・流鏝馬大会

（4）ミルクシステム診断事業

[独自：7,061千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

ミルクシステム診断 492基、バルククーラ点検 351基

＜担い手の強化・育成等に係る事業＞

（5）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,513千円、預かり補助金76,581千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進
繁殖雌牛増頭への奨励金 7農協、226頭
- ② 優良繁殖雌牛導入支援
優良雌牛の導入貸付に奨励金を交付 7農協、267頭
- ③ 肉用牛ヘルパー推進
肉用牛ヘルパー利用の推進等 5組合
- ④ 肉用牛振興推進指導
①から③の円滑実施のための指導等

イ 地域の特色ある肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種等の振興
 - ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、15集団
 - ・ 計画出荷対策 1農協、344頭
- ② 山振地域における肉用牛振興
 - ・ 優良子牛適正出荷推進 3農協、2,237頭
- ③ 地域の特色のある肉用牛生産推進指導
①及び②の円滑実施のための指導等

（6）肉用牛生産基盤強化等対策事業（多様な担い手育成支援）

[中畜委託：521千円]

コスト意識と多様な技術を持つ経営者の育成を目的とした研修会の開催及び全国交流会への参加促進を行った。

研修会 2回 全国交流会 1回（参加者 2名）

（7）酪農生産基盤確保・強化緊急支援事業（女性・リタイア世代等の就農・定着等推進）

[中畜委託：481千円]

酪農経営後継者養成に資するため、家畜飼養管理技術研修会の開催及び全国交流会への参加促進を行った。

研修会 2回 全国交流会 1回（参加者 3名）

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(8) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：362千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

機械導入事業実施に係る書類の取りまとめ・進達等 15協議会

(9) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜委託：400千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 5戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(10) 酪農経営安定対策補完事業（牛群検定システム高度化支援事業）

[機構補助：59千円、預かり補助金 14,986千円]

酪農経営の安定を図るため、牛群検定に取り組む組合がデータ収集及び酪農家指導等に要する費用に補助を行った。

14検定組合

(11) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業

[岩手県委託：500千円]

乳用牛群検定で得られたデータを有効活用するため、情報を収集・分析し、検定組合への提供等を行った。

検定組合巡回指導 14組合

(12) 畜産・酪農生産力強化緊急対策事業（酪農経営改善緊急対策）

[中酪補助：89千円、独自：89千円]

畜産・酪農における生産性を高めるため、受精卵移植技術の向上を目的とした研修会を開催した。

研修会 1回

(13) 馬の改良増殖奨励事業

[地全協補助：984千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

ア 優良種雄馬繁殖奨励（種付け奨励）

種雄馬 6頭、種付け頭数 31頭、奨励金交付額 372千円

イ 子馬生産奨励（生産奨励）

対象頭数 26頭、奨励金交付額 610千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(14) 家畜防疫互助基金造成等支援事業

[機構補助：3,570千円]

口蹄疫、豚コレラ等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

ア 推進会議

3回

イ 対象戸数及び頭数（括弧内は加入率）

乳用牛 507戸（48.2%）、28,378頭（64.0%）

肉用牛 2,028戸（38.6%）、55,028頭（62.1%）

豚 50戸（40.6%）、277,683頭（77.4%）

(15) 自衛防疫体制強化推進事業

[家畜衛生対策推進協議会委託：2,575千円]

地域の自衛防疫体制を強化するため、防疫演習及び飼養衛生管理基準啓発研修会を開催し、慢性感染症清浄化対策を実施した。

検討会 2回、防疫演習 4回、研修会 1回

(16) 衛生体制強化基金事業

[中畜補助：109千円]

予防接種事業を効果的に推進するため、地域推進会議における助言指導等を行った。地域推進会議 5回、アカバネ病予防接種推進リーフレット作成・配布2,240部

(17) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜委託：420千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

委員会 1回、講習会 1回、実態調査 87戸、基礎技術実習 1回

(18) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：198千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

日本脳炎 33頭、馬インフルエンザ 38頭、破傷風混合 3種 37頭

(19) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

[中畜委託：327千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 70頭、馬鼻肺炎 4頭

(20) 生産段階における防疫強化支援事業（馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業）

[中畜委託：76千円]

馬伝染性疾病防疫対策に必要な基礎資料を得るため、馬飼養農家を対象として馬の飼養及び衛生状況に係る実態調査を行った。

調査対象 87戸、回答 32戸

(21) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業

[農水省補助：2,112千円、預かり補助金：10,189千円]

死亡牛の円滑かつ適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

補助対象戸数 1,021戸、対象頭数 2,289頭

(22) 死亡牛処理円滑化推進事業

[岩手県委託：338千円、預かり補助金：14,006千円]

県南地域化製場の操業停止に伴う農家の死亡牛処理等費用負担の増嵩を軽減するため、補助を行った。

補助対象頭数 1,687頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(23) 家畜共進会開催事業

[岩手県補助 1,250千円、独自：1,525千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、岩手県畜産共進会として、全県を範囲とする畜種別の共進会を開催した。

ホルスタイン種については、第14回全日本ホルスタイン共進会（開催地：北海道）の最終選抜会を兼ねた。

部門	期日	出品頭数	会場
黒毛和種	9月2日	64頭	全農いわて中央家畜市場
日本短角種	9月3日	42頭	同上
馬	9月11日	10頭	馬っこパーク・いわて
ホルスタイン種	9月25日	125頭	全農いわて中央家畜市場
肉牛(黒毛和種)	11月7日	100頭	株式会社岩手畜産流通センター

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(24) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,316千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

奇数月・年6回発行、1回当たり発行部数 1,550部

(25) 乳用種初生牛生産費調査事業（乳用種初生牛の経営に関する調査）

[中畜委託：270千円]

畜産振興施策の基礎資料を得るため、乳用種初生牛の生産費等の調査を行った。

酪農 15戸

(26) 畜産現場における障がい者の参画推進支援事業

[畜産経営支援協議会委託：208千円]

障がい者の畜産現場への参画に係る課題等を明らかにするための調査を実施した。

調査対象畜産農家等 10戸

(27) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,259千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 125基、リース事業周知 12回

(28) 公庫資金活用推進事業（地域農業支援事業）

[日本政策金融公庫委託：100千円]

畜産経営の改善に資するため、会議等において公庫資金に係る情報を提供し、活用を推進した。

(29) 畜産技術指導促進事業

[独自：600千円]

研修会、会議、全国共進会等に参加し、畜産技術指導等を行った。

会議等 19回、指導等 8回

(30) 図書支援事業

[中畜委託：492千円]

畜産の知識・技術を普及啓発するため、(公社)中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等書籍の斡旋配布を行った。

2 継続事業 2

肉用牛肥育経営安定対策事業

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

[機構補助：980,749千円、生産者積立金：322,696千円、
独自：16,083千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、四半期ごとに、肥育牛1頭当たりの平均粗収益が平均生産費を下回った場合、差額の8割を補填金として交付した。

ア 肥育牛補填金交付対策

[機構補助：968,088千円、生産者積立金：322,696千円]

(ア) 基金造成

1,290,784千円

内訳：機構 968,088円 (3/4)、生産者 322,696円 (1/4)

(イ) 契約生産者数及び頭数 (平成27年2月1日～平成28年1月31日)

- ・ 契約生産者数401戸
- ・ 肥育牛頭数 19,637頭
内訳：肉専用種 11,470頭、交雑種 6,012頭、乳用種 2,155頭

(ウ) 補填金交付実績

- ・ 交付対象頭数 3,158頭
内訳：交雑種 2,167頭、乳用種 991頭
- ・ 交付総額 48,706千円

イ 肥育経営安定推進

[機構補助：12,661千円]

(ア) 会議開催

2回

(イ) 事務委託費の交付

- ・ 交付先 委託農業協同組合等 10団体
- ・ 交付総額 3,806千円

ウ 推進事務費 (生産者手数料)

[独自：16,083千円]

(ア) 協会推進事務費

13,447千円

内訳：人件費、旅費、会議費ほか

(イ) 事務委託先推進事務費

2,636千円

(2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業

[岩手県ほか補助：15,450千円]

日本短角種肥育経営の安定のため、肉用牛肥育経営安定特別対策事業による補填金額が、日本短角種肥育牛の平均粗収益と平均生産費の差額の8割を下回った場合、その下

回った額を補填（上限40千円）した。

ア 基金造成額

14,450千円（負担区分：県1/2、市町1/4、農協1/4）

区 分		戸数	頭数	単価	補助金
岩	手 県	25戸	578頭	12,500円	7,225,000円
市 町	盛 岡 市	2戸	30頭	6,250円	187,500円
	久 慈 市	14戸	306頭	6,250円	1,912,500円
	二 戸 市	2戸	84頭	6,250円	525,000円
	岩 泉 町	7戸	158頭	6,250円	987,500円
	小 計	25戸	578頭	6,250円	3,612,500円
農 協	新岩手農業協同組合	24戸	572頭	6,250円	3,575,000円
	岩手中央農業協同組合	1戸	6頭	6,250円	37,500円
	小 計	25戸	578頭	6,250円	3,612,500円
合 計		25戸	578頭		14,450,000円

イ 推進事務費

1,000千円（負担区分：県1/2、市町1/4、農協1/4）

交付事務及び担当者会議開催費ほか

ウ 補填金交付実績（平成27年2月から平成28年1月まで販売分）

- ・ 対象頭数 231頭
- ・ 交付総額 4,695千円

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：9,951千円、独自：198,908千円]

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業

[農水省補助：9,951千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金交付 6頭

イ オーエスキー病清浄化推進総合対策（清浄種豚流通促進対策）

抗体検査 4,615頭

ウ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 45,322頭

エ 牛白血病対策

講習会 1回、抗体検査 37頭

(2) 独自事業

[独自：198,908千円]

ア 予防接種

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数
牛 5 種 混 合 (生)	11,018頭
牛 5 種 混 合 (不 活 化)	5,669頭
牛 5 種 混 合 (生) + ヘ モ	12,501頭
牛 6 種 混 合 (生 ・ 不 活 化)	3,389頭
牛 6 種 混 合 (生)	888頭
牛 ヘ モ フ ィ ル ス	9,140頭
豚 丹 毒 (生)	104,270頭
豚 丹 毒 (不 活 化)	38,180頭

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な活動に要する経費に補助を行った。

- ・ 補助対象 7件：サルモネラ症 3件、ウイルス性下痢・粘膜病 4件
- ・ 補助金交付総額 1,108千円

II その他事業

1 その他事業 1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：76,716千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、安定的な家畜人工授精用凍結精液供給を行った。

(1) 凍結精液供給 (括弧内は対前年度比)

108,910本 (97.8%)

内訳：乳用牛 37,280本 (85.9%)、肉用牛 71,630本 (105.4%)

(2) 受精卵供給 (括弧内は対前年度比)

761個 (149.2%)

(3) 液体窒素供給 (括弧内は対前年度比)

53,983kg (101.1%)

(4) その他

サブセンター等担当者会議、視察研修、家畜改良関係情報の提供

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：35,261千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。

(1) 家畜登録関係（括弧内は対前年度比）

ア 乳用牛

8,692件（104.5%）

内訳：血統登録 5,258件（103.2%）、牛群審査 1,174件（107.6%）、牛群検定成績証明 985件（120.8%）、移動・その他 1,275件（96.8%）

イ 豚

2,728件（107.3%）

内訳：種豚登録 659件（105.9%）、子豚登記 1,889頭（104.3%）、農場認定 8件（88.8%）、移動・その他 172件（172.0%）

(2) 研修会等出席

東北地区登録委員研修会（秋田県）、種豚登録講習会（愛知県）、登録事務担当者会議（東京都）

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：120,934千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託及び依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。

(1) 検査実績（括弧内は対前年度比）

ア 生乳取引関係

550,465,578kg（99.2%）

イ 牛群検定関係

513,924件（97.0%）

ウ 依頼試料乳関係

（ア）成分及び体細胞数検査

23,414件（112.1%）

（イ）細菌数検査

7,508件（120.1%）

(2) 検査項目

成分検査（脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素）、体細胞数検査、細菌数検査

4 その他事業4

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、自らの技術・知識の向上を図るとともに、畜産経営に有益な情報提供を行った。

地方競馬への支援を兼ねて、競馬場において畜産への理解を促進するため、畜産物の配布等を行った。

(1) 職員技術研修事業

[独自：166千円]

関係機関・団体が行う先進的な研修会等に本会職員を派遣し、知識・技術の向上を図った。

研修会及び講習会への参加 6回、会議等出席 19回、指導 8回

(2) 北海道・東北畜産協会職員研修事業

[独自：224千円]

北海道・東北ブロック畜産協会職員研修会に参加し、畜産に関する知識・技術の習得と諸情報の交換を行った。

開催地：北海道（9月17日・18日）、常務理事ほか 3名出席

(3) 岩手競馬支援特別対策事業

[独自：312千円]

岩手競馬における冠レースへの会長賞授与、競馬ファン感謝サービスの実施、畜産物等の消費宣伝等を行った。

ア 冠レース

南昌山賞（7月19日、盛岡競馬場）

ひいらぎ賞（11月29日、水沢競馬場）

イ ファン感謝サービス・消費宣伝

県産畜産物加工品500個配布（11月29日、水沢競馬場）

(4) 畜産関係団体調整機能強化事業

[中畜委託：250千円、独自：8千円]

岩手競馬における冠レースへの会長賞授与、競馬場における畜産フェアの開催、県産畜産物加工品等の配布を通じて、岩手競馬の支援と畜産への理解促進を行った。

ア 冠レース

セプテンバーカップ（9月5日、水沢競馬場）

もみじ賞（10月18日、盛岡競馬場）

イ 畜産フェア

県産畜産物加工品 600個配布（10月18日、盛岡競馬場）